

## 「北九州国際映画祭」 「KIFFプレミア作品」上映会の実施及び、 上映日、上映会場、上映作品等が決定！

令和5年12月13日～17日に開催する「北九州国際映画祭」の会期中、「KIFFプレミア作品」（これまで、「プログラム作品」と示していた作品）上映会の実施が決定いたしましたので、お知らせいたします。

### 1 企画概要（「KIFFプレミア部門」とは）

日本または福岡のプレミア（初上映）作品を中心に、3名のプログラマーが「今まさに観るべき作品」を国内外から厳選し、上映いたします。世界各国の多様な文化・歴史を背景に、現代社会の多様なテーマを探求している力強い6作品をセレクションしました。

各プログラマーや上映作品の監督等によるアフタートークなども実施の予定（別途お知らせいたします）です。

観客の皆様には新たな視座と深い感動を提供することを目指します。

### 2 「KIFFプレミア部門」プログラマー

#### （1）近浦啓（ちかうら けい）氏プロフィール

映画監督。2013年、短編映画『Empty House』で映画監督としてのキャリアをスタート。以降、『The Lasting Persimmon』、『SIGNATURE』の二本の短編映画を経て、2018年『コンプリシティ』で長編映画監督デビュー。『コンプリシティ』は、第43回トロント国際映画祭でのワールドプレミアを皮切りに、第23回釜山国際映画祭、第69回ベルリン国際映画祭など、多くの国際映画祭に選出され、日本では第19回東京フィルメックスで観客賞を受賞。

2023年、長編第二作『大いなる不在（英題：GREAT ABSENCE）』が完成し、第48回トロント国際映画祭、第71回サン・セバスティアン国際映画祭、共にコンペティション部門にノミネートされる。サン・セバスティアン国際映画祭では、最優秀俳優賞（藤竜也）、アテネオ・ギプスコアノ賞のダブル受賞を果たす。映画『大いなる不在』は2024年日本劇場公開の予定。



写真：アライテツヤ

## (2) 神谷直希 (かみや なおき) 氏プロフィール

大学院在学中の2000年に短期スタッフとして第1回東京フィルムメックスに参加し、第2回目以降は作品・プログラム担当のスタッフとして上映作品の選定業務や来日ゲストの招聘業務等に携わる。2019年10月にいったん同映画祭を離職し、株式会社木下グループにて、キノフィルムズやキノシネマの洋画配給作品のマーケティング業務や買付け業務に携わるが、2021年5月にプログラム・ディレクターとして東京フィルムメックスに復帰する。



## (3) 森田真帆 (もりた まほ) 氏プロフィール

1980年、東京生まれ。1998年に渡米。映画『007 ダイ・アナザー・デイ』などのメガホンをとった映画監督リー・タマホリのアシスタントとして、ドラマ「ソプラノズ 哀愁のマフィア」の制作現場に関わる。その後、ニューヨークからロサンゼルスに渡り、ウィル・スミスが代表を務めるウィル・スミス・エンタープライズにてインターン。北野武監督のロサンゼルスロケなどさまざまな映画製作の現場を経験。



現在は映画ライターとして活動しながら、ライフワークとして大分県別府市にある別府ブルーバード劇場の番組編成を務めているほか、同劇場の盛り上げ役としてBeppuブルーバード映画祭や十人十色映画祭など様々なイベントを企画している。書籍「崖っぶちのハリウッドライフ～まほのハリウッド日記」を発売中。

監督作品 ドキュメンタリー「十人十色の物語」。

## 3 上映日及び上映会場

### (1) 上映日

令和5年12月14日(木)～17日(日) ※ 上映時間は別途お知らせいたします。

### (2) 上映会場

J:COM北九州芸術劇場・中劇場 及び 小倉昭和館

## 4 上映作品

### (1) 『喜劇 愛妻物語』 ※ 14日(木) 上映

稼ぎがほぼゼロで家に居場所もないのに、プライドだけは一人前なダメ夫・豪太役には、独特の憎めない個性で愛される人気俳優、濱田岳。そして夫に罵声を浴びせながらも、家計や子育てを支える不機嫌妻のチカには水川あさみが扮し、罵詈雑言を連発する毒舌キャラを熱演。また、豪太とチカの娘アキには、音楽ユニット「Foorin」のメンバーでもある新津ちせ。さらにチカの親友・由美役の夏帆や、光石研、ふせえり、大久保佳代子らが脇を固める。



©2020『喜劇 愛妻物語』製作委員会

足立 紳

監督・脚本：足立紳 原作：足立紳「喜劇 愛妻物語」(幻冬舎文庫)

製作：川城和実、潮田一、宮前泰志、古迫智典

エグゼクティブプロデューサー：濱田健二

プロデューサー：西川朝子、代情明彦

アソシエイトプロデューサー：森重宏美、長汐祐人

ラインプロデューサー：鶴岡智之 音楽：海田庄吾 撮影：猪本雅三 (J.S.C)

照明：山本浩資 録音：西條博介 美術：平井淳郎 編集：大関泰幸

出演：濱田岳、水川あさみ、新津ちせ、大久保佳代子、坂田聡、宇野祥平、

黒田大輔、富手麻妙、河合優実、夏帆、ふせえり、光石研

117分 日本 2019年



### 【森田プログラマーのコメント】

以前、昭和館でも上映された本作は、壮絶な夫婦喧嘩をしながらも支え合う2人を笑いあり、涙ありで描いています。監督は、現在NHKで放映中の朝ドラ「ブギウギ」の脚本を手掛けている足立紳。これまでの監督作品では、どうしようもない男のかっこ悪さや、臆病さ、滑稽さ、そして愛らしさを描いてきました。強い奥さんの尻に敷かれた気の弱い旦那という新たな夫婦像を世界に観てほしい。笑う門には服来る、劇場で皆で一緒に笑いたいと思っています！

## (2) 『ディス・マジック・モーメント』 ※ 14日(木) 上映

### 【福岡プレミア】

2022年、コロナ禍のミニシアターを行脚したロードムービー映画『あなたの微笑み』の公開を前に、舞台となったミニシアターに次々と困難が降りかかっていった…。同年4月に首里劇場の金城政則館長が急逝し閉館が決まり、5月にサツゲキが経営は継続するも民事再生法を申請、8月末をもって豊岡劇場が一時休館、8月10日の旦過地区の火災により昭和館が全焼した。そしてついにリム監督の本拠地大阪のテアトル梅田が9月に閉館が決まった。居ても立っても居られなくなったリム監督。ついに自らインタビュアーとなって、ミニシアターを駆け巡る！



(C)cinemadrifters

監督・プロデューサー・脚本・編集・

ナレーション：リム・カーワイ

撮影：大窪竜司 録音・サウンドデザイン：山下彩

音楽：石川潤 カラコレ：田巻源太

90分 日本 2023年

リム・カーワイ



### 【森田プログラマーのコメント】

映画が、映画館が大好きなリム・カーワイ監督の映画愛に溢れた作品。昭和倉館が復活する今、ありし日の小倉館がスクリーンの中に刻まれた本作を上映する、この意味はとても大きかったです。全焼してしまった1週間後、昭和館で主演作の舞台挨拶をする予定だった尚玄さんも上映当日は駆けつけてくださいます。普段はなかなか話す機会がない映画館の支配人たちのとっておきのお話を聞いて、魔法のような瞬間(マジック・モーメント)を楽しんでください。

(3) 『The Shadowless Tower』(『白塔の光』) ※ 15日(金) 上映  
【福岡プレミア】

中年の料理評論家グー・ウェントンは、若い写真家の同僚オヤンと共に、活気に満ちた北京の地元飲食店を巡り歩く。彼は離婚しているが、6歳の娘がおり、また自身の父親とは何十年も疎遠になっている。彼は父親として、息子として、そして恋人としての自分の失敗を見つめ直し、人生に対する新たな視点を模索している。季節が巡り、人は集まり、そして離れていく。変わらないものはただ一つ、それは遅かれ早かれ彼らが出会う白塔だ。



チャン・リュル

監督・脚本：チャン・リュル  
プロデューサー：ジアハン・シュー、ジアン・チャン  
ジン・ペン、ウェンリー・リウ、シェン・ルー、ユエ・ホアン  
音楽：ヘ・シャオ 撮影監督：ピオ・ソンリ  
編集：シンジュ・リュウ 美術：イーカン・ジェン  
出演：シン・バイチン、ホアン・ヤオ、  
ティエン・チュアンチュアン、  
スーチン・ガオアー、ワン・ホンウェイ、リー・チンチン、  
ワン・イーウェン  
144分 中国 2023年



【神谷プログラマーのコメント】

福岡県柳川市で撮影された『柳川』(21)に続くチャン・リュル監督の長編作品。年老いた母親を亡くしたことをきっかけに、幼少の頃から生き別れになっていた父親を捜そうとする中年男性の姿が描かれる。彼が仕事を通じて出会う若い女性との関係を含めて、ニュアンスに富む描写を重ねることで、徐々に豊かな作品世界が立ち上がってくる構成が素晴らしい。ベルリン国際映画祭のコンペティション部門でワールドプレミア上映された。

(4) 『Terrestrial Verses』(『地上の詩』) ※ 16日(土) 上映  
【ジャパンプレミア】

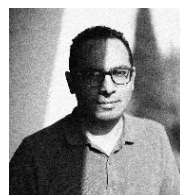
「Terrestrial Verses」は、学校教員から官僚まで、様々な社会的権威によって課される文化や宗教、社会制度における制約と共に生きるイランの人々を追う。ユーモアがありながらも心に触れるこの作品は、逆境の中での人々の精神と決意を捉え、複雑な社会を繊細に描写する。



アリ・アスガリ

アリレザ・カタミ

監督・脚本：アリ・アスガリ&アリレザ・カタミ  
プロデューサー：アリ・アスガリ、  
ミラド・コスラヴィ  
撮影：アディブ・ソバニ  
美術：ハメド・アスラニ  
音楽：マスード・ファヤズ・ザデ  
編集：エハン・ヴァセギ



Copyright\_Aliyar\_Rasti.

Copyright\_Onur\_Coban.



サウンド・デザイン：アリレザ・アラヴィアン  
録音：アブドルレザ・ハイダリ&イマン・バズヤール  
出演：バーラム・アーク、アルガヴァン・シャバニ、  
セルヴィン・ザベティアン、サダフ・アスガリ、  
ファエゼ・ラド、ホセイン・ソレイマニ、マジド・サレヒ、  
ファルズィン・モハデス、ゴウハル・ケイル・アンディシユ、  
アルデシール・カゼミ  
77分 イラン 2023年

#### 【近浦プログラマーのコメント】

『Terrestrial Verses』は、イランの新進監督アリ・アスガリとアリレザ・カタミによる初の共同監督作品。九つの短編で構成され、それらの「小さな物語」を積み重ねることで、複雑なイラン社会における抑圧のメカニズムを鮮明に、そして感動的に描いている。2023年カンヌ国際映画祭（ある視点部門）でワールドプレミア上映された。

### (5) 『Do Not Expect Too Much from the End of the World』 ※ 17日(日) 上映 (『世界の終わりにはあまり期待しないで』)

#### 【ジャパンプレミア】

過重労働の制作アシスタントであるアンジェラは、多国籍企業から依頼された「職場の安全」ビデオのキャスティング用の撮影をするため、ブカレストの街を車で走り回らなければならない。このビデオの表向きの目的は、仕事に関連した事故に繋がるような様々な危険について、自社の従業員の意識を高めるため。すぐに彼女は半身麻痺の労働者マリアンに出会い、彼はそのビデオで役を得ることになるのだが...



ラドゥ・ジューデ



©Micro\_Film\_photo\_Silviu\_Ghetie

監督・脚本：ラドゥ・ジューデ  
プロデューサー：ダイアナ・カラビア、  
エイドリアン・シェフ、クレア・ドーノイ、  
ラドゥ・ジューデ、  
アンキツァ・ジュリッチ・ティリッチ、  
ジョルゴス・カルナバス、コンスタンティノス・コントブラキス、  
セルジュ・ラルー、アンドレアス・ロアルド、ヴァレンティノ・ルドルフ、  
エイドリアン・シタル、エイダ・ソロモン、イオアナ・ステイス、  
ポール・シルトチェス、ダン・ウェクスラー、ジャマル・ゼイナル・ザーデ  
撮影監督：マリウス・パンドゥル 編集：カタリン・クリストゥティウ  
美術：クリスティアン・ニクレスク、アンドレア・ポパ  
出演：イリンカ・マノラーチェ、ニーナ・ホス、オヴィディウ・ピルサン  
ドリーナ・ラザール、アンディ・バスルイヌ  
163分 ルーマニア 2023年

#### 【神谷プログラマーのコメント】

ルーマニアの鬼才ラドゥ・ジューデ監督による、ベルリン映画祭で金熊賞に輝いた『アンラッキー・セックスあるいはいかれたポルノ』(21)に続く長編作品。映画のスクリーンや Zoom 画面、あるいは TikTok 映像を自由奔放に横断するコラージュ作品で、現代ルーマニア、ひいては現代社会そのものに対する知的で過激な風刺劇として成立している。ロカルノ映画祭でワールドプレミア上映され、審査員特別賞を受賞した。

(6) 『THE BURITI FLOWER』(『ブリーティの花』)  
【ジャパンプレミア】

※ 17日(日) 上映

ブラジルの森の中心部に住む先住民族クラホー族の少女 ジョタート、彼女の母のパットプロ、シャーマンであるヒジュノー。彼らは、利益を追求する外部の人間による絶えざる迫害を経験することで、先祖伝来の儀式、自然への愛、そして自由を守るための戦いに向かい、新たな形の抵抗を見出ししていく。



Copyright Karō Filmes \_ Entre Filmes

ジョアン・サラヴィザ レネ・ナデル・メソラ

監督・脚本：ジョアン・サラヴィザ &  
レネ・ナデル・メソラ  
脚本：ジョアン・サラヴィザ、  
レネ・ナデル・メソラ、  
イルダ・パットプロ・クラハウ、  
フランシスコ・ヒジニョ・クラハウ、  
ヘンリケ・イジャク・クラハウ  
プロデューサー：ジョアン・サラヴィザ、  
レネ・ナデル・メソラ、リカルド・アルヴェス・ジュニア、  
ジュリア・アルヴェス 撮影：レネ・ナデル・メソラ  
美術：アンヘレス・ガルシア・フリンチャボイ、  
イルダ・パットプロ・クラハウ  
編集：エドガー・フェルドマン、ジョアン・サラヴィザ、  
レネ・ナデル・メソラ、リカルド・アルヴェス・ジュニア、  
ジュリア・アルヴェス 撮影：レネ・ナデル・メソラ  
美術：アンヘレス・ガルシア・フリンチャボイ、  
イルダ・パットプロ・クラハウ  
編集：エドガー・フェルドマン、ジョアン・サラヴィザ、  
レネ・ナデル・メソラ 音響監督：ディオゴ・ゴルタラ  
出演：バーラム・アーク、アルガヴァン・シャバニ、  
セルヴィン・ザベティアン、サダフ・アスガリ、ファエゼ・ラド、  
ホセイン・ソレイマニ  
124分 ポルトガル=ブラジル 2023年



【近浦プログラマーのコメント】

『The Buriti Flower』は、ブラジルの先住民族クラホー族の深遠な文化を背景に、主人公の母娘を通じて過去と現在、神話と現実を織り交ぜ紡がれた物語。今、世界的に注目を浴びている「先住民の土地と文化の保全」というテーマを考える上で必見の作品である。2023年カンヌ国際映画祭(ある視点部門)でワールドプレミア上映され、アンサンブル賞を受賞した。

(お問い合わせ先)

北九州国際映画祭実行委員会事務局

市民文化スポーツ局文化企画課

担当:村田、堀池 電話:093-582-2389